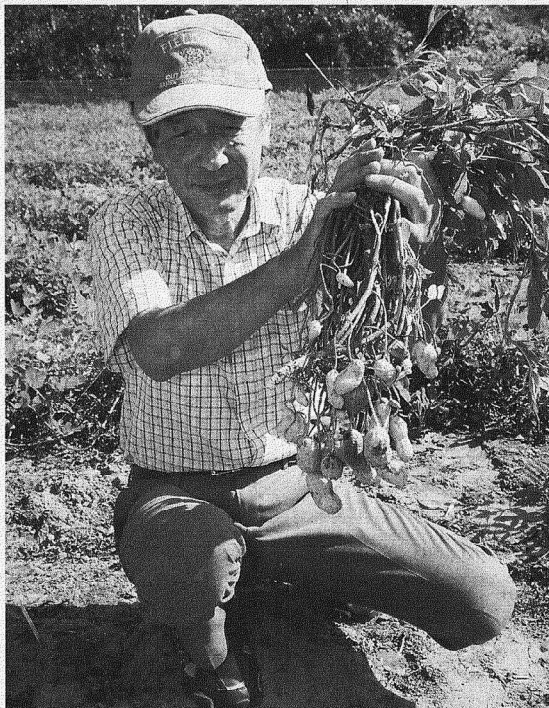


ラッカセイ「愛の香り」

ゆで豆用 新品種第1号



育苗圃場で育てた「愛の香り」を示す曽良さん
(千葉県睦沢町で)

千葉県茂原市の曽良（かつら）久男さん（70）は、個人でラッカセイの育種に取り組む。成果の第1号として、ゆで豆用の新品種「愛の香り」を育成した。「おおまさり」よりも大きく、ゆでて甘く、作業性が良いといった特徴を持つ。農家での栽培も始まっている。

個人で取り組む

千葉県茂原市
曽良久男さん

曽良さんは、県の研究機関で果樹、ラッカセイ、花植木の育種や栽培研究に携わった。2009年に県職員を退職した後、個人でラッカセイの育種を開始。遺伝資源を集め、自宅の庭に鉢を並べて研究を進める他、睦沢町に約200平方メートルの育苗圃場（ほじょう）を借りている。

農家段階で栽培始まる 作業性良く 甘い

に品種登録出願し、19年3月に出版公表された。母親に郷の香、父親に「おおまさり」とゆで豆用品種同士を交配して選抜した。

極大粒で食味の良さが人気の「おおまさり」と比べた改良点は、大きく3つ。①さやと実が10%ほど大きい②ゆで豆が甘い③立性で草姿が良く作業性に優れ、中耕・除草や収穫、脱きょう作業などがしやすい—としている。平面味の面ではいまひとつという声があるという。

消費者が大きな実感で観光農園向きとしてデビューさせたが、直売や市場出荷する農家も十分利用できる。2月から種の販売を始め、今年は県内の8農家が栽培した。生産した「愛の香り」をスーパーに卸した農家からは「売れている」と報告があり、上々の滑り出しとなったようだ。

曽良さんは「今後も、味で『おおまさり』を上回る品種を目指したい」と先を見据える。大粒で、ゆで豆用にも、いりざや用にも向くラッカセイも育種のテーマだ。「いろいろ苦労してきたが、いい個体を選抜できて親に使えるようになり、育種はセカンド・ステージに入った」と話す。

育種の取り組みは、同園のホームページ「落花生の宝石箱」で紹介している。
(ちば)